

平成25・26年度の協議のまとめ(案)

平成27年3月

伊賀地域高等学校活性化推進協議会

1 平成24年度までの経緯

伊賀地域では、中学校卒業生数の減少に対応するため、平成16年度から協議会を設置し、県立高校のあり方について検討を進めてきました。平成18年9月にそれまでの協議を総括し、伊賀市内の専門高校3校を統合して新総合専門高校（伊賀白鳳高校）を設置することをとりまとめるとともに、少子化が進む平成27～33年度頃には伊賀地域の県立高校は4校程度となることをイメージ化しました。

その後も少子化が進行することから、平成22年度に協議会を再開し、当地域の県立高校のあり方について検討を行いました。検討にあたっては、地域の中学校卒業生の進路状況や学習ニーズ等を踏まえるとともに、保護者や市民を対象とした説明会を開催して検討状況を報告し、そこで出された意見も参考としました。

こうした検討の結果、平成28年4月に名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して普通科をベースとした新しい高校を設置し、両校の良さを継承・発展させるとともに、広い視野とコミュニケーションスキルを身につけ、地域や世界で活躍できる人材を育成すること等を、協議のまとめ（平成25年3月）としました。

2 平成25・26年度の協議の概要

平成24年度までの協議を踏まえ、「地域全体の学科の適正な配置」「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援」「当地域における中高一貫教育の実施」について、協議しました。

なお、平成28年4月に名張市に開校する新しい高校については、教職員等で構成するワーキング会議における検討状況の報告を受けて、意見を出すこととしました。

(1) 地域全体の学科の適正な配置について

今後の中学校卒業生数の推移予測や中学生の進路状況など、当地域の県立高校をとりまく状況を踏まえて協議を行いました。主な意見は次のとおりです。

- 平成31～33年度頃には地域全体の1学年の学級数が28学級程度となり、平成25年度に比べて4学級程度減少することが共通認識されたと考える。地域の小中学生や保護者等への周知に必要な期間を考慮しながら、協議する必要がある。
- 平成18年9月の「協議のまとめ」には、平成27～33年度頃に伊賀地域の県立高校が4校になるというイメージが示されているが、本当に4校になっているのかをよく考えて、議論する必要がある。
- 地域としては普通科への志向が強いという意見があるが、地域のニーズを分析したうえで、普通科や総合学科等を今後どうしていけばよいか考えなければならない。

○

○

○

(2) 特別な支援を必要とする子どもたちの県立高等学校への受け入れと支援について

当地域において、特別な支援を必要とする子どもたちを含め、すべての子どもたちが地域で学べる学校づくりが必要との意見があることから、特別支援教育の現状や課題を踏まえて協議を行いました。主な意見は次のとおりです。

- 特別な支援を必要とする子どもは増加傾向にあり、地元の県立高校に受け入れる枠組みをつくってもらいたい。
- 保護者の中には子どもに高校卒業資格を取らせたいという声があり、子どもたちが私立通信制高校や県外にも進学している実態を踏まえると、当地域の県立高校にその受け入れ体制をつくる必要があるのではないか。
- どの高校においても特別支援教育に関する校内委員会を設置するとともに、特別支援教育コーディネータを中心に体制の整備を図り、中学校との情報交換を充分に行いながら、入学してきた生徒に対する最大限の支援をしていると考えている。
- 現行制度の中では、義務教育である小中学校には人材配置・施設整備等の法的措置があるが、高校では入学者選抜、履修及び単位認定、通学手段、施設や設備、卒業後の出口保障等に課題がある。
- 県立高校の入学者選抜に特別な選抜枠を設けた場合は、その分、他の志願者の定員枠が狭くなることや、他の志願者との間の公平性の確保に課題がある。また、「地域全体の学科の適正な配置」の議論にも影響してくる。

○

○

○

(3) 当地域における中高一貫教育の実施について

当地域の県立高校のあり方を考える中で、中高一貫教育の利点を活かして魅力ある学習環境を整備できるのではないかという意見があったことから、当地域における中高一貫教育の実施について、そのメリット・デメリットや全国の事例等を踏まえて協議を行いました。

伊賀地域の人口規模や交通事情等も含めて総合的に検討したところ、中高一貫教育には、6年間を通じて「ゆとり」をもって学ぶことができる等の大きな利点があるという意見がある一方で、今後、少子化が進む中で、地域の小中学校に与える影響の大きさが心配される等の課題があるという意見が多く出されたことから、伊賀地域に新たに中高一貫教育校を設置することは難しいと結論づけました。

(4) 名張新高等学校（名張青峰高等学校）に係るワーキング会議の検討状況について

検討状況の報告を受けて、次のような意見が出されました。

- 進学に特化したコースを1学級程度設置して、国公立大学等の文系と理系への進学に対応するということだが、少人数となっても文系と理系別の講座を開設すること等を含めて、しっかりと対応してもらいたい。
- 名張桔梗丘高校は、平成28年度は2・3年生のみ、平成29年度は3年生のみになるが、専門教科を指導する教員配置や部活動・学校行事の合同実施等を含めて、在校生の高校生活の充実に努めてもらいたい。
-

3 おわりに

本地域協議会では、これからも伊賀地域全体の県立高校のあり方について、引き続き協議を進めます。

協議にあたっては、多様な進路希望をもった地域の子どもたちが地域の学校で学べるような環境づくりに留意することが必要です。また、中学校卒業生数が平成31年以降に再び大きく減少することや、中学生の進路動向、学習ニーズ等を踏まえるとともに、小中学生及び保護者の進路選択への影響を勘案して、具体的な方向性を出せるよう検討を進める必要があります。

なお、「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援」についても、地域全体の県立高校のあり方の中で、引き続き検討する必要があります。

<参考>協議会の開催日

平成25年度

- 第1回 平成25年 9月 3日 (火)
- 第2回 平成25年11月13日 (水)
- 第3回 平成26年 1月27日 (月)

平成26年度

- 第1回 平成26年 8月25日 (月)
- 第2回 平成26年10月29日 (水)
- 第3回 平成26年12月16日 (火)
- 第4回 平成27年 2月25日 (水)

平成25・26年度 伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

区分	所属等	氏名	備考
学識経験者 (1名)	高田短期大学キャリア育成学科 教授	すぎ 杉 うら 浦 れい 礼 こ 子	
有識者 (4名)	中外医薬生産株式会社 代表取締役社長	た やま まさ とし 田 山 雅 敏	平成26年 11月まで
	イシダフーズ株式会社 代表取締役社長	たに がき こう じ ろう 谷 垣 幸 次 郎	平成26年 12月から
	伊賀上野観光協会 会長	ひろ ざわ こう いち 廣 澤 浩 一	
	亀井商事	なか たに ゆき お 中 谷 幸 雄	
	株式会社ダイワ設計企画室	さくら い かつ いち 櫻 井 勝 一	
PTA関係者 (5名)	伊賀市PTA連合会 会長 (伊賀市立阿山中学校PTA)	まつ やま やす とし 松 山 安 利	平成25 年度
	伊賀市PTA連合会 会長 (伊賀市立新居小学校PTA)	もり なか あ ゆ み 森 中 明 由 美	平成26 年度
	名張市PTA連合会 会長 (名張市立名張中学校PTA)	い しゅう もと ゆき 伊 集 基 之	平成25 年度
	名張市PTA連合会 会長 (名張市立南中学校PTA)	く ぼ た しん じ 久保田 真 司	平成26 年度
	伊賀地区県立学校PTA協議会 会長 (あけぼの学園高等学校PTA会長)	なが お はる み 永 尾 晴 美	平成25 年度
	伊賀地区県立学校PTA協議会 会長 (上野高等学校PTA会長)	いま い やす ゆき 今 井 康 之	平成26 年度
	伊賀市内県立学校PTA代表 (上野高等学校PTA会長)	やま ぐち はる ひこ 山 口 明 彦	平成25 年度
	伊賀市内県立学校PTA代表 (あけぼの学園高等学校PTA会長)	たか しま ます み 高 嶋 益 美	平成26 年度
	名張市内県立学校PTA代表 (名張高等学校PTA会長)	しも なお しげ き 下 猶 茂 樹	
市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	の ぐち とし ふみ 野 口 俊 史	
	名張市教育委員会 教育長	うえ しま かず ひさ 上 島 和 久	
小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 代表 (伊賀市立青山中学校 校長)	みなみ で まさ み 南 出 雅 巳	
	名張市小中学校長会 代表 (名張市立名張中学校 校長)	にし やま よし かず 西 山 嘉 一	
教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (名張市立美旗小学校 教諭)	まつ やま しゅう ご 松 山 修 吾	
	高等学校教員 代表 (名張西高等学校 教諭)	ふじ たか てる や 藤 高 照 也	平成25 年度
	高等学校教員 代表 (名張桔梗丘高等学校 教諭)	たに の よし のり 谷 野 善 憲	平成26 年度
県立学校長代表 (3名)	上野高等学校 校長	ど ひ とし はる 土 肥 稔 治	平成25 年度
	伊賀白鳳高等学校 校長	つじ まさ ゆき 辻 正 幸	平成26 年度
	名張高等学校 校長	は せ がわ ひる ふみ 長谷川 博 文	平成25 年度
	名張西高等学校 校長	か とう ゆき ひろ 加 藤 幸 弘	平成26 年度
	特別支援学校伊賀つばさ学園 校長	すぎ お あり 杉 生 彰	

計19名

(事務局) 県教育委員会事務局 教育総務課、高校教育課

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増)

平成26年5月1日 教育総務課調べ

	H 23.3	H 24.3	H 25.3	H 26.3	H 27.3	H 28.3	H 29.3	H 30.3	H 31.3	H 32.3	H 33.3	H 34.3	H 35.3
	卒業生数	927	936	905	897	856	907	794	778	772	755	736	740
伊賀市	前年度対比		9	-31	-8	-41	51	-113	-16	-6	-17	-8	4
	H26.3対比					-41	10	-103	-119	-125	-142	-161	-157
	公立小中在籍者数					785	843	762	783	779	769	745	749
	私立小中在籍者数				62	38	24						
名張市	卒業生数	746	707	702	730	644	704	687	720	671	651	649	629
	前年度対比		-39	-5	28	-86	60	-17	33	-49	-20	-3	-20
	H26.3対比					-86	-26	-43	-10	-59	-79	-81	-101
	公立小中在籍者数					644	705	689	757	710	690	684	658
小計	卒業生数	1,673	1,643	1,607	1,627	1,500	1,611	1,481	1,498	1,443	1,406	1,385	1,369
	前年度対比		-30	-36	20	-127	111	-130	17	-55	-37	-11	-16
	H26.3対比					-127	-16	-146	-129	-184	-221	-242	-258
	小中在籍者数					1,491	1,586	1,475	1,540	1,489	1,459	1,428	1,407
伊賀地域高等学校学級数					33	32	32	31	29				

(参考)

県内合計	卒業生数	H 23.3	H 24.3	H 25.3	H 26.3	H 27.3	H 28.3	H 29.3	H 30.3	H 31.3	H 32.3	H 33.3	H 34.3	H 35.3
	前年度対比	17,950	18,224	18,120	18,382	17,797	17,842	17,450	17,409	16,758	16,438	15,724	16,159	16,016
	H26.3対比		274	-104	262	-585	45	-392	-41	-651	-320	-714	435	-143
	小中在籍者数					17,784	17,810	17,436	17,559	16,907	16,591	15,854	16,296	16,151